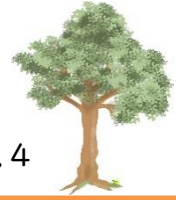




豊小だより

2021.11.4



2学期が始まり、11月を迎えました。保護者の皆様には、新型コロナウイルス感染症拡大のため、引き渡し訓練やクリーン作戦などの行事の延期、校内体育大会の参観の制限などへのご理解・ご協力を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

お陰様で、10月26日・27日には6年生の修学旅行を無事終えることができました。レインボーラインや永平寺などの県内の観光地を巡り、芦原温泉に宿泊する1泊2日の旅でした。子どもたちからは県内の魅力を再発見できたという声が聞かれました。6年生以外でも1年生の足羽山秋みつけ、2年生の福井駅前探索、3年生のスーパー見学、4年生の伝統工芸体験等、学校外での学習が行われています。どれも感染対策をしっかりとした上で活動を行っています。



永平寺座禅体験

冬に向け、第6波の感染拡大への懸念もあります。今後とも、保護者や地域の皆様には感染対策へのご理解・ご協力をよろしくお願いします。

地域に愛着と誇りをもつ子を育てるために

本校では、スクールプランに「『豊地区まちづくりビジョン』をカリキュラムに取り入れ、地域の学習素材・人材の活用を図り、地域に愛着と誇りをもたせる」ことを取組の一つとして掲げています。

夏休みには、「地域ふれあい絵日記」と「みのりの絵」「越前花堂駅のデザイン画」応募作品を全年の課題にしました。コロナ感染症のため多くの地域行事が中止になり、自宅で過ごすことが多くなって地域の方とのふれあいも少なくなっていますが、「地域ふれあい絵日記」には、子どもたちが身近にある地域を感じた思いが綴られています。いくつか紹介します。()内はお家の方からの一言です。

【1年 IK】わたしの近所ではかき氷屋さんをやっています。このかきごおりはとってもおいしいです。いつも大人気で、スノーベアの虹色のかき氷は私のお気に入りです。ほかにも普通のイチゴやメロン、マンゴー、グレープなどがあって、とてもおいしいです。(コロナ禍でも近所の子どもたちを楽しませようと、昨年夏限定で始めたかき氷屋さん。大人も子どもも夢中になりました。)



【2年 KR】今日僕はお母さんとおさごえ民家園にいきました。おさごえ民家園には福井県のいろいろなところから古い家が六つ集まっています。屋根は今の瓦ではなく、茅葺きなので、草が生えていました。家の玄関を入ったところに「馬屋」があって、突然ネズミが飛び出してきたのでびっくりしました。(家の近くにあってもじっくり見たことがなかったのよ機会となりました。今とは違う昔の生活がどんなのかあと話し合えたのでよかったです。)



【3年 MS】ぼくは夜まわり駅伝をやりました。「火の用心、たばこのポイ捨て火事のもと」と言いました。たばこが結構落ちていて、大人たちが拾ってくれました。拍子木をやって楽しかったです。まわっているときにおじいちゃんやおばあちゃんが「お疲れさんです」と声をかけてくれたので頑張れました。次の年も頑張りたいです。(子どもたちの声が地域の方々に届くと嬉しいです。)

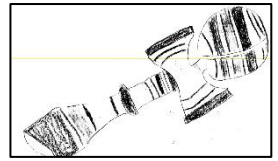
【4年 UM】わたしは毎週日曜日に犬の散歩に行きます。なぜこれを日記にしたのかというと、そのときが一番人にふれあう時間だからです。散歩のときによくいるおじいさん、おばあさんも「こんにちは」と

*豊小だよりは、本校のホームページからもご覧いただけます。右のQRコードからアクセスできます。→



手を振ってくれるとうれしい気持ちになります。こちらから先に「こんにちは」と言えるといいです。(近所の人に会うことも減ってきているので、散歩の時に挨拶をしたりすることはすごくいい機会だと思います。自然に「こんにちは」と言えるのは大事だね。)

【5年 YY】コロナが収まることがないので、地域の人とふれあう機会がない中、今日はこんなことがありました。私と妹が習字教室へ行った帰りに、私の家の前に住んでいるおばあさんに話しかけられました。3ヶ月の休校中にも家で留守番をしていた妹と私を気にかけてくれたこのおばあさんは、私たちを呼び止めてこう言いました。「このけん玉もらったんだけど、よかったらおばあさん使わないからあげるよ」。私たちはけん玉をもらったことより、こうやって私たちを気にかけてくれる地域の人がいることがうれしく思えました。(今年の夏も昨年の夏と同様にいろいろと制限された夏になってしまったね。でもその中で気が付くことがあったのはとてもよいことだとお母さんは思いました。)



【6年 IA】最近、新型コロナウイルスの影響で地域の人とふれあうことがなくなってしまいました。それでも何か少しでもふれあうことができないか考えました。それが回覧板だと思いました。回覧板のよさは、渡す人と少し話したりすることができることです。しかも、回覧板にはいろいろな出来事や予定が分かります。僕はこれからも地域の人とふれあっていきたいです。(夏休み中は外に出る機会も少なく、地域の人とふれあうことも難しいので、回覧板を持って行くことで挨拶ぐらいはできてよかったと思います。)



10月24日(日)に豊公民館で、「みのりの絵」児童画コンクール表彰式がありました。本来なら、「公民館まつり」が盛大に開かれ、その一環として受賞者全員に対する表彰式を行うところですが、公民館まつりが中止となり、参加者を制限しての表彰式となりました。審査には、公民館長様をはじめ地域の方々と学校代表で校長が参加しました。今年のテーマは「みのりの宝」「みのりの未来」「みのりの家族」、そして新たに追加された「みのりのゆるキャラ」です。床一面に並べられた色とりどりの絵を見ていると、明るく温かい気持ちになりました。



「みのりの宝」をテーマに描かれた絵には、木々や花、昆虫などの生き物、豊地区のシンボルである八幡山が描かれているものがたくさんありました。みのりっ子は、街中にあっても自然が身近にある環境をみのりの良さとして大事に思っていることが絵から伝わってきました。また、家族や友達、地域の方といっしょに過ごしている場面の作品には、笑顔があふれていました。安心して過ごせる温かい家族や仲間がいることが子供たちにとっては一番の宝なのだと思います。

「みのりのゆるキャラ」をテーマに描かれた作品の中にも、緑の植物や八幡山がモチーフになっている作品が多く見られました。まん丸の黄色い顔をした「つきみちゃん」、緑の山が葉っぱの手をつないで並んでいる「みのリン、みのルン」など、ゆるキャラに付けられたネーミングが面白い作品もありました。「いつもは土の中にいるけれど、困った子がいると助けにくる」とキャラクター紹介がされている作品からは、本校が目指す児童像の一つとして掲げている「思いやりのある子」の理念がみのりっ子にしっかり浸透していることを感じ、とても嬉しく思いました。

今回のコンクールを通して、本校ホームページのトップ画面の一番上に「地域協働で子どもの成長を見守ります。福井市豊小学校」と記されているとおり、家庭と地域と学校が手を携えて子どもたちを見守り育てていくことが大事であることを実感しました。人とのふれあいを阻むコロナ禍にある中だからこそ、このような地区行事と学校での地域学習によって、豊地区に愛着と誇りを持ち、将来、豊地区を支える地域の担い手となる子どもを育てていきたいという思いを強くしました。

